

# 東京都立 多摩総合医療センター

## 就任のご挨拶

副院長 榎山 鉄矢



4月の人事異動にて、副院長を拝命した榎山と申します。近隣医療機関の皆様には日頃よりご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

私こと、今回で当院勤務は3回目となります。一回目は1987年からの7年間で、主として呼吸器の勉強をいたしました。2回目は、2001年からの13年間で、ERおよび救命救急センターを担当し、救急に専従いたしました。この間に「東京ER」の開設や病院の改築移転があり、シームレスな救急をテーマに、体制整備に苦心しました。

一生現場で救急をやるつもりでしたが、期せずして転出を命ぜられ、6年にわたり都立松沢病院の副院長を務めました。ここでは主として精神障害者の身体合併症の診療にあたりました。幸い上司や部下に恵まれ、一定の仕事が出来た様に思います。

最近「一体専門は何？」と聞かれることが多くなりました。実のところ自分でも良く分からなくなっているのですが、とにかく頑なに「救急科」を標榜し続けるつもりです。

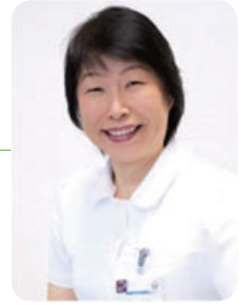
当院での自分の担当は、「内科系診療統括」および「医療人材担当」その他、「がん医療」「感染症医療」「難病医療」「ゲノム医療」等となっております。いずれも重要な課題であり、浅学非才の身でとても担いきれない思いですが、微力を尽くす所存です。何卒ご指導をお願いいたします。

また今回の異動では、いきなり新型コロナウイルス感染症診療の最前線に参戦することになりました。着任早々対策室長を命ぜられ、四苦八苦しております。当院では、院長を中心に病院一丸となって感染症診療に取り組んでおります。至らない点も多いかと存じますが、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。一日も早くワクチンや治療薬が開発され、診療に光が差すことを願ってやみません。





## ごあいさつ



看護部長 小坂 智恵子

4月1日付で看護部長として着任いたしました小坂智恵子でございます。近隣医師会の先生方、連携医療機関のみなさまには、日頃より大変お世話になっております。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

多摩総合医療センター運営理念である「私たちはいつでも誰にでも安全で質の高い患者中心のあたたかい医療を提供するために全力をつくします」のもと、患者中心の看護、安全・安心の看護、専門性の高い看護を提供していくと同時に、今後は益々「地域の皆さまに貢献する看護」を推進していきたいと考えております。

看護部門においては、引き続き総合患者支援センターや入院サポートセンター、看護専門外来等の強化・拡大を図ってまいります。そして、患者・家族の思いに寄り添い、切れ目のない医療・ケアを継続できるよう、地域スタッフも交えた多職種合同退院カンファレンスや退院前後訪問などをさらに充実させ、地域医療機関の皆さまからご紹介いただいた患者さんが、入院中だけでなく退院後も引き続き安心して暮らしていけるよう、地域と病院との連携をより円滑にしております。

また、当院看護部門には、精神看護専門看護師をはじめ多領域の認定看護師24名に加え、今年度から新たに特定認定看護師2名が誕生しました。出張学習会や交流研修、共育セミナーへのお誘いなど、地域のニーズに応えながら、顔の見えるネットワークづくりを進めてまいります。今後もさらにヒューマンリソースを地域の財産として、お役立ていただければ幸いに存じます。

引き続き都立病院としての使命を果たしていくために、地域の医療機関の皆さまと共に、都民の命と健康を守ってまいります。どうぞご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。



## ごあいさつ



庶務課長 藤井 佐和子

令和2年4月1日付の人事異動により、庶務課長を拝命いたしました藤井と申します。平素より、近隣医師会の先生方をはじめ、医療関係機関の皆様には、当院の医療連携にご理解、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が蔓延する状況の中、当院は、行政医療、高度専門医療を引き続き継続してまいりましたが、新型コロナウイルス感染症に対する診療の業務量が加速度的に増大しており、皆様方のご理解ご協力をいただきながら、診療科によっては従来の診療内容の変更や縮小等をせざるをえない状況となっております。

このような状況の中、地域の医療関係機関の皆様方とは、これまで以上に密にコミュニケーションを取らせていただき、相互に情報交換を行いながら更なる連携を図って、医療連携をより一層充実させて頂きたいと考えておりますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、皆様の益々のご発展とご健勝を心よりお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。



# 泌尿器科のご紹介

泌尿器科部長 東 剛司



近隣の医師会、医療機関の先生方には当科の診療への御理解、御支援をいただき、厚く御礼申し上げます。当院の泌尿器科は、専門医2名を中心に5名の泌尿器科医師で診療をしています。5名のうち2名が女性医師ですので、今までは泌尿器科の受診に抵抗を感じていた女性患者さんにも、受診しやすい環境となっています。

当科では、悪性腫瘍を中心に診療・手術を行っております。責任医師に拝命された当初より、患者さんの術後QOL向上を目標に鏡視下手術を導入してまいりました。2017年より開始したロボット支援腹腔鏡下根治的前立腺摘除術も100例を超えようとしています。さらに2019年よりロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術を開始しています。

## 1. ロボット支援腹腔鏡下根治的前立腺摘除術

根治的前立腺摘除術をロボット支援下に行うものですが、従来の手術に比べてより繊細で、正確な手術を行うことができ、傷が小さく痛みが軽度で、手術後の回復が早い、手術中の出血量が少ない、尿禁制(尿失禁がない状態)を含む機能温存などにおいてより優れていると考えられています。当院の現状は、手術時間は3時間以内、入院は7~8日と非常に順調に施行出来ています。膀胱頸部の温存に心がけることにより、尿失禁の良好な改善を認めています。また、従来は全摘術を躊躇するような局所進行例も放射線治療との併用により、良好なコントロールを認める症例が散見されます。

## 2. ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術

腎部分切除をロボット支援下に行うものですが、ロボット支援腹腔鏡下根治的前立腺摘除術同様に、傷が小さく痛みが軽度で、手術後の回復が早い、手術中の出血量が少ないなどが優れていると考えられています。さらに、後述の腹腔鏡下根治的腎摘除術と異なり、腎機能の温存が期待できます。ただし、術後出血など切除断端に由来する合併症が問題となりますが、拡大視野による血管の同定、持針器の可動域が広いことによる縫合がしやすいなど、切除断端の止血に優れています。当院の現状は、手術時間は2~3時間、入院は6~7日と非常に順調に施行出来ています。

## 3. 腹腔鏡下根治的腎摘除術

腹腔鏡下を用いて腎臓の全摘を行います。従来の開腹手術と比べて、傷が小さく痛みが軽度で、手術後の回復が早い、手術中の出血量が少ないなどが優れていると考えられています。

これらの3つの手術に共通することですが、術後の離床が非常にスムーズに開始できています。手術翌日に歩行する患者さんも多く、開腹手術を施行していた時代に離床を促して患者さんに激高された事が嘘のようです。それに伴い、術後の合併症を経験することも、ずいぶん少なくなりました。



【採用】令和2年4月1日付

副院長	榎山 鉄矢
脳神経外科医長	鈴木 健也
耳鼻咽喉科医長	岩村 均
リウマチ膠原病科医員	宇都宮 雅子
脳神経外科医員	虎澤 誠英
精神神経科医員	栗山 和子
内科医員	梅村 佳世
外科医員	川崎 浩一郎
外科医員	古田 隆一郎
産婦人科医員	丘 佳恵
産婦人科医員	池田 哲哉
救命救急センター医員	和田 健志郎
救命救急センター医員	佐藤 裕一

【昇任】令和2年4月1日付

内科部長	並木 伸
リウマチ膠原病科部長	島田 浩太
内科医長	下地 耕平
内科医長	中園 綾乃
産婦人科医長	馬場 慎司

【採用】令和2年 5月 1日付

心臓血管外科医員	大原 弘喜
----------	-------

【退職】令和2年3月31日付

副院長	手島 保
診療放射線科部長	輿石 剛
耳鼻咽喉科医長	井上 亜希
脳神経外科医員	大垣 福太郎
脳神経外科医員	藤谷 茂太
精神神経科医員	市橋 雅典
内科医員	栗原 正道
外科医員	吉村 俊太郎
外科医員	中田 晴夏
産婦人科医員	櫻井 香織
耳鼻咽喉科医員	伊東 明子
救命救急センター医員	高慶 承史

【派遣】令和2年3月31日付

リウマチ膠原病科医長	横川 直人
------------	-------

【転出】令和2年3月31日付

リウマチ膠原病科部長	杉井 章二
------------	-------

【退職】令和2年 4月30日付

心臓血管外科部長	大塚 俊哉
----------	-------

●● 各種講習会・勉強会のご案内(医療従事者向け) ●●

※詳細が決まり次第、ホームページ等にてご案内させていただきます。

当院は原則として、**紹介予約制**です。外来及びCT、MRI検査は必ず予約を取り、紹介状をお願い致します。

ご意見、ご投稿、お問い合わせは医療連携担当(内線2171)まで

<電話予約センター>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

TEL : 042-323-9200

<FAXによる診療予約>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

FAX : 042-323-9205

緊急の場合…必ず事前にご連絡ください

代表電話：042-323-5111から、①平日の午前9時～午後5時は「〇〇科責任医師」、②午後5時以降、土曜日、日曜日及び祝祭日は「〇〇科の救急担当医」とお申し付けください。

連携医ホットライン：042-312-9119 月～土 9:00～20:00(祝日年末年始は除く)

連携医の先生方専用の当院医師への直通電話です。当日の緊急診療依頼にぜひご利用ください。

※一部の診療科では、夜間・休日は専門医がおりませんので診療できない場合があります。

※受診が決まった場合は、患者さんに紹介状(診療情報提供書)をお渡しください。

